

## 1 研究主題

自分の考えを確かにもち表現し合う児童を育てる指導法の研究  
～協働学習やタブレット端末の効果的な活用を通して～

## 2 主題設定の理由

21世紀は、新しい知識、情報、技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代と言われている。知識基盤社会は、変化が激しく、常に、新しい未知の課題に試行錯誤しながらも対応することが求められる社会である。こうした社会を生き抜く資質として、わが国の子どもたちにとって課題となっている思考力、判断力、表現力等を高めることが求められている。小学校学習指導要領総則において各教科等の指導に当たっては、児童の思考力・判断力・表現力等を育む観点から、言語環境を整え、言語活動の充実をはかることに配慮することが求められている。また、教師がコンピュータや情報通信ネットワークなどのICT機器を授業の中で効果的に活用し、指導方法の改善を図りながら、児童生徒の学力向上につなげていくことが重要であると示されている。文部科学省「教育の情報化ビジョン」（平成23年4月）において、「情報通信技術を活用して、一斉指導による学び（一斉学習）に加え、子どもたち一人一人の能力や特性に応じた学び（個別学習）、子どもたち同士が教え合い学び合う協働的な学び（協働学習）を推進」するよう提議された。

このような中、武雄市においては今年度より市内の全小学生にタブレット端末を貸与することとなり、現行学習指導要領が求める教科等における日常的な教育の中での情報教育の推進が可能となった。また、算数科と理科においては、スマイル学習（反転学習）を推進することで指導法を改善し、児童生徒の学力の向上を図ることとなった。スマイル学習とは、『School Movies Innovate the Live Education—classroom（先生の動画によって、教室の授業が、より革新する）』という意味で、知識の習得は（家庭などで）自分のペースで行い、学校では事前知識をもとに、学び合い、教え合いを中心に行う＊学習である。

本校においては、平成21年度より国語科「読むこと」の研究を進めてきた。昨年度は、読みの道筋「読みのものさし」に沿った言語活動を取り入れ、児童の主体的な学びを促してきた。また、「比較し関連付け、類推する思考場面」の具体化を図り、比較する場面を設定して思考を促してきた。このことにより、児童の学習意欲が継続し、児童が文章の内容を正確に読み取る力は、着実に高まった。しかし、児童が自分の立場を明確にし、根拠を見出すことは不十分であったために、自問自答したり他者と対話したりして、新たなものの見方や考え方、感じ方を身につけさせるまでは至っていなかった。児童の思考力を高めることは課題として残った。

また、全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査結果における「授業での学び方」について次のようなことが明らかになった。「調べ活動があまりできていない」と感じる児童が38%であり、必ずしも自分の考えを持っていない。「話し合う活動をよく行えた」と答えた児童が88%いる反面、「自分の考えを発表する機会があまり与えられていない」と感じる児童が21%いる。また、「自分の考えを深めたり広げたりすることができている」と感じている児童が65%であった。しかし、実際には、決まった児童だけが発言し、話し合い活動は行っているが、自分の考えを高めるような話し合いには至っていない。学習形態（一人学習・グループ学習・全体学習）等の工夫を通して、児童一人一人の達成感を高めながら思考力・表現力を育成していく必要がある。

以上のようなことから、平成20年中央教育審議会答申において例示された6つの言語活動のうち、本研究では、特に「互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる」ことに焦点を当て、言語活動として協働学習を取り入れる。また、単元の目標を達成するため、タブレット端末を場に応じ

て効果的な活用を図っていく。今年度は、各教科（国・算・理・社など）において協働学習を設定し、自分の考えを持ち、他者の考えと比較・分類・関連付ける活動を行うことでよりよい考えへと高めていこうとする児童を育成できると考え、本研究主題を設定した。

※武雄市教育委員会事務局スマイル課

### 3 研究の目標

思考力・表現力を育成するために、協働学習やタブレット端末を効果的に取り入れた学習展開の工夫をはかる。

### 4 研究の仮説

比較・分類・関連づける活動を取り入れた協働学習の展開をはかったり、学びを充実させるためにタブレット端末を活用したりすれば、自分の考えを確かにもち、新たな考えをつくり出してよりよい考えへ高めていくことができるであろう。

視点1 協働学習を生む学習展開（グループ協働学習→全体協働学習）

視点2 タブレット端末の効果的な活用

### 5 研究の内容

- (1) 学年や教科の特性に応じた協働学習の方法や話し合いの場を設定する。
- (2) 学年や教科の特性に応じた効果的なタブレット端末の活用する。

### 6 研究の方法

- (1) スマイル学習等を活用した学年や教科の特性に応じた協働学習の方法や話し合いの場を設定した授業作りについて検討し、授業研究会を行う。
- (2) C-Learning（シーラーニング）、xSync（パイシンク）、e-ライブラリ、Shu-Chu Trin（シューチュートレイン）等のソフトやカメラ機能を中心としたタブレット端末を活用した授業を実践したり、家庭学習の手引きについて検討したりする。
- (3) C-ラーニングの機能を生かした振り返りの実施し、授業での活用について探る。（4年生以上）

### 7 研究の主な内容と流れ

月	実施内容
4	推進会（今年度の教育研究計画、組織作りの検討） 全会（校内研究の内容説明）
5	専会（活動計画の決定・校内言語環境の整備） ICT 研修（タブレット端末等の操作、C-ラーニング等）
6	ICT 研修
7	2日授業研究会（2年生活科「かぞくしょうかいをしよう」） ICT 研修
8	全会（学力学習状況調査の分析と学力向上対策） G 研（授業づくり） 専会（言語環境の整備） ICT 研修
9	17日全会授業研（3年算数科「あまりのあるわり算」） ICT 研修（xSync）
10	1日全会授業研（5年社会科「いま、どんな自動車が求められているの」） 4日 G 会授業研（4年社会科） 7日 G 会授業研（5年社会科） 29日 G 会授業研（3年社会科）
11	5日全会授業研（6年国語科「リーフレットで作者のものの見方や感じ方を解説しよう」） 6日 G 会授業研（1年国語科）、11日 G 会授業研（1年図工科） 14日 G 会授業研（2年生活科、5年国語科） 19日 G 会授業研（2年音楽科） 20日 G 会授業研（4年体育科） 25日 G 会授業研（2年算数科） 26日 授業研究会（2年生活科「とっておきの秋を見つけよう」）、27日 G 会授業研（2年体育科、6年社会科、3年算数）、28日 G 会授業研（4年国語科） ICT 研修（eライブラリ、集中トレイン）
12	3日 G 会授業研（5年家庭科） 18日 G 会授業研（6年理科） G 研（指導案検討）
1	30日学習公開（全員授業）
2	全会（研究のまとめ）
3	全会（今年度の校内研究の成果、課題）

